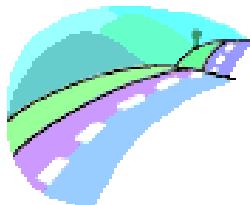




のっぽの手

〒960-8034 福島市置賜町1-29 佐平ビル
TEL 024(528)1211 FAX 024(528)1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>



住民参加の道普請

理事 清水 修二

福島市南部の松川町で「まちづくり」のお手伝いをしている。東北自動車道のスマートインターが恒常的に設けられることになったので、町なかを通る自動車交通が急増し、道路の一部拡幅が行われることになった。これを契機に、旧宿場町としての地域づくりを盛り上げようというのが、地元の住民団体の思いだ。そこで、隣接する地区にある福島大学のほうに協力の依頼があり、私が微力を提供することになった次第だ。

山形県の「地元学」にならい、まずは「あるものさがし」の町歩きを企画した。思いの外たくさんの人が集まり、2時間ほどでぐるりと回ったあと、豚汁を楽しみながらグループごとの発表会をした。笑いの連続で大成功である。

さすがは旧宿場町だけあって、土蔵がたくさんあるのに驚かされた。目に付いたものだけでもざっと数えて30はある。かつての宿場の面影をしのばせる物が、数は多くないがほかにもいろいろあった。見事な大木があちこ

ちにあるのも目に付いた。旧街道の「裏道」に、結構な散歩道になりそうな箇所もある。

こうした「地域資源」をこれからどう生かすかを考えることになる。まずはそこに住んでいる住民にとって楽しく、また誇れる空間にするのが先決だ。そうすれば、やがて通過する自動車が「ちょっと立ち寄ってみよう」と感じるような魅力的な町に結果としてなっていくだろうと思う。前途は長いが、面白い活動の展開になればいいと期待している。

ところで、道路の拡幅がさしあたったの検討課題になる。ただ道路が広くなっただけでは、下手をすると生活空間が分断され、生活の安全が脅かされるだけに終わることになりかねない。当面はほんの数メートルの区間だが、旧宿場町の風情を演出して、印象に残るしゃれた「みち」を作り出す余地はあるのではないか。福島市の「道普請」のモデルになるような、住民参加の道路建設が実現すれば画期的だろう。



※スマートインターチェンジ

高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置されたインターチェンジでETC専用です。

福島松川スマートインターチェンジは、平成16年12月から社会実験実施。平成18年10月1日から本格導入され、平成19年9月から24時間化されました。



元気助成金で一石三鳥になるか

ふくしまNPOネットワークセンター会員

福島市議会議員 早川 哲郎

NPOへのアンケートで「何に困っていますか」と問えば、「お金」という答えが上位に入ります。企業でもそうですが、組織規模が大きくなっても資金繰りは経営の基礎ですから、役人が天下りした特殊法人でもない限り、資金獲得はNPOの永遠の悩みかもしれません。

この「お金」。何をやっても、どこに居ても天から降ってくることはありません。どんなに公益性の高いミッションを掲げたNPOでも、突然多額の寄付が寄せられるなんてことはありませんから、資金を獲得することはミッション達成の重要課題になります。しかし、NPOで活動する方々が資金獲得のノウハウに長けているなどということは稀なことで、様々なチャレンジをしながら資金獲得のコツを身に付けていかなければなりません。

ふくしま元気市民活動助成金は幅広い団体、活動を対象にしており、使いみちにあまり制限をつけず、助成金入門編として応募しやすいものになっています。昨年の募集で、私が知っているいくつかの団体の応募書類を読んで感じたことは、「この内容では活動の良さが伝わらない」ということでした。企画を立てそれを伝えることにもコツが必要で、それは実際に企画を考える作業の繰り返しと他者からの批評によって磨かれていくものだと考えます。経験上…

加えて山形市の方式を模範にした公開プレゼンテーションが、この助成金選考の特徴になっています。公募市民100人が選考委員になる公開プレゼンテーションは、選考委員ひとり5票の投票がそのまま選考結果につながるもので、公平性、明瞭性の高い選考方法です。市民活動が地域住民に知られる機会は大変少なく、PR効果もまた公開プレゼンに期待される大きな一面です。

プレゼン側にとって大勢の選考委員を前にするのはやり甲斐がありますが、助成金を獲得できなかった団体の関係者が「もっとうまくやらなきゃ駄目だ」と、ほかとの差がはつきりしてしまう公開プレゼンの怖さを実感したようでした。その気持ちは必ず次の助成金獲得につながるはずです。

助成金はそれ自体が事業資金として活動の充実に役立つだけではなく、それを獲得する過程が団体のスキルを磨くトレーニングになります。補助金、助成金、そして寄付はNPOの資金調達方法として見逃せません。それらを獲得する力は、本来の活動の向上にもつながっていきます。ふくしま元気市民活動助成金が、県北地域での住民主体活動のスキルアップに役立つよう大きな期待を持っています。



NPO法人 ふくしまNPOネットワークセンター（認定NPO）

ふくしま 元気市民活動助成金
対象活動募集!!

市民が選ぶ、市民による、市民のための活動助成事業

地域のために、元気に活動している団体を応援します。

地域に暮らす人たちが地域の発展を命をかけるために奮起しようとする活動、市民が喜び助成金を活用します。

募集金額 **10万円** 応募期間 4月22日～5月20日(火)～4月20日(火)

未来づくり市民活動助成金
対象活動募集!!

環境を守る活動、次世代育成事業など未来づくりのために活動している団体を応援します。

募集金額 **15万円** 応募期間 4月22日～5月20日(火)～4月20日(火)

市民審査員募集のお知らせ

ふくしま元気市民活動助成金・未来づくり市民活動助成金について、市民審査員として参加していただく方を募集しています。応募期間は、4月22日～5月20日(火)です。詳しくは、市民審査員募集パンフレットをご覧ください。
<http://www.f-npo.jp>

寄付金募集

ふくしまNPOネットワークセンターは、市民活動の発展を支援します。

ふくしま元気市民活動助成金・未来づくり市民活動助成金について、市民審査員として参加していただく方を募集しています。応募期間は、4月22日～5月20日(火)です。詳しくは、市民審査員募集パンフレットをご覧ください。
<http://www.f-npo.jp>

市民審査員募集パンフレット

募集期間	募集対象	募集金額
3月20日(土)	市民審査員募集期間	10万円
4月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
5月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
6月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
7月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
8月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
9月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
10月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
11月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円
12月20日(火)	市民審査員募集期間	10万円

ふくしま元気市民活動助成金 未来づくり市民活動助成金募集中

○ふくしま元気市民活動助成金

1団体当たり上限10万。
地域のために元気に活動している団体を募集
7月11日（日）に公開プレゼンテーションを行います。市民審査員も同時募集中。

○未来づくり市民活動助成金

1団体当たり上限15万。
環境を守る活動、次世代育成事業など未来づくりのための活動している団体を募集

応募期間は4月20日（火）までとなります。

詳しくはネットワークセンターHP

アドレス（<http://www.f-npo.jp/>）でご確認ください。

チャイルドライン啓発フォーラム 「ふくしまにチャイルド ラインを！！」を終えて

「ふくしまにチャイルドラインを！！」実行委員会

ふくしまNPOネットワークセンター 理事 遠藤 ヒロ子

18歳までの子どもが悩みや不安を自由に話せる子ども専用電話「チャイルドライン」の本県開設を目指したチャイルドライン啓発フォーラム等を去る1月22日から24日までの3日間、福島県立図書館で開催いたしました。

この企画を、私ども「特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター」にお声を掛けていただきましたことに対しまして感謝申し上げます。

主催は、チャイルドライン支援センター（東京）と「ふくしまにチャイルドラインを！！」実行委員会ですが、福島県や福島県教育委員会等多くの機関からご後援をいただきました。啓発フォーラムに先立ち、22日からチャイルドライン夢メッセージ展（絵馬展）を開催しましたが、3日間で500人を上回る方々にご来場をいただきました。やなせたかしさんや吉永小百合さんなどたくさんの著名人の方々による手書きの絵馬を展示させていただきましたが、チャイルドラインをご存じなかった皆様にも興味を持っていただけたものと思っております。

24日のフォーラムについては約140名の参加をいただき、チャイルドラインの概要や他県での活動状況が報告され、また、本県の現状を、医師、社会福祉施設等の専門家のリレートークにより説明いただいたことから、福島県のチャイルドライン活動の現状や子どもたちの置かれている現実を知り得てとても良かったとの感想をいただきました。フォーラムに関するアンケートにお答えいただいた102名のうち、5段階評価で満足度4以上と回答いただいた方が73名で、メッセージ展やフォーラムを通じて、チャイルドラインの啓発という所期の目的は果たせたのではないかと感じております。

一方、テレビ局5社を始め、新聞社の報道により、当日来られなかった皆様にも、チャイルドラインという言葉とその活動内容についてご理解いただけたものと思います。

今後とも、ふくしまNPOネットワークセンターといたしましては、チャイルドラインの事務局ができるまでチャイルドラインの普及啓発を図りながら、多くの皆様に議論を深めていただき、出来るだけ早い時期に本県においてもチャイルドライン活動を実施できる体制を構築してまいりたいと考えております。

会場の設営等多くの場面でご協力いただきました福島県立図書館様、ご後援をいただきました皆様、そして裏方で支えていただきました県内の多くのNPO法人の皆様衷心より感謝を申し上げ、チャイルドライン啓発フォーラムの活動報告とさせていただきます。



※皆様のご協力で、ハイチ地震募金が5,042円集まりました。
ご協力ありがとうございました。
この募金は新聞社を通して、ハイチへお送りいたします。



福島フォーラム上映会を終えて 平成21年度ふくしま元気市民活動助成金助成対象事業

特定非営利活動法人いいざかサポーターズクラブ
佐藤 耕平

2月28日に行われた映画「TOZNA」の試写会には、約90名の方にご来場いただき、盛況のうちに終了いたしました。先行して行われた自主企画の試写会（パルセいいざかにて開催）にもたくさんの地域住民の方にご来場いただき、ご好評をいただきました。

映画「TOZNA」は、福島市で俳優として活動するアクトーズリーグの代表・隈井士門さんが、飯坂町にロケ地としての魅力を感じ、十綱橋にまつわる伝承から、脚本をおこし、自ら撮影・主演をこなして製作された自主映画です。

サポーターズクラブでは撮影当時から製作に協力し、完成1次試写会は当NPOの運営するコミュニティ・カフェ「温カフェ」において、関係者のみで行いました。その際、かねてより思い描いていた福島市でのフィルムコミッション協議会設立に向けての一歩として、飯坂町での試写会、さらに福島フォーラムでの上映会開催を決定しました。

パルセいいざかでの試写会には、主に飯坂町からのお客が多く、アンケート結果にもそれは反映しており、映画の内容より、飯坂町でのロケが強く印象に残った方が多くいらっしゃいました。また映画の内容に関して、男女が深く絡み合うシーンがあり、R15指定としたことに関して、子供も一緒に楽しめる作品を作ってほしいとの意見も多数含まれていました。

福島フォーラムでの上映会には、福島市内はもちろん、市外からのお客も多数来られ、やはり飯坂

町での試写会に比べ、純粋に映画に関する評価が多く見られました。

映画の内容は、非常に冒険的な試みがなされており、「まちおこし」を目的とした教育ビデオや観光ビデオとは一線をひいた、ストーリー性を重視した映画です。それは映画の内容に関しては監督に一任し、サポーターズクラブとしては、上映会場の確保や宣伝にのみ関わるという形でなされたためでした。

結果、良い意味でのみ飯坂町をアピールする映画であるとは、必ずしも言い切れず、特に「さびれた温泉街」というフレーズに対し批判的な意見も伺いました。

映像というものは、非常に扱いの難しいものです。過剰な演出と編集は架空の飯坂町を作り上げてしまいます。それは地域住民の愛する「ふるさと」とはかけ離れてしまう危険性も含んでいるのです。

もちろん映画も架空の物語です。ですが映画は現実の世界に裏付けられたリアリティがあってこそ、架空の世界に観客を引き込むことができると考えます。まず私たちの愛するふるさとをありのままにとらえて、なおかつ地域の住民があらためてその魅力を感じることでできる映画の製作に携わっていきたいと思います。



福島市市民活動サポートセンターが 『チェンバおおまち』へ移転します。

5月1日（土）より福島市市民活動サポートセンターが福島市大町のチェンバおおまち3階へ移転いたします。施設も広くなり、会議室もご利用いただけるようになります。

移転に伴い、4月28日（水）～30日（金）は臨時休館となります。（27日は定休日です）詳しくは福島市市民活動サポートセンターへお問い合わせください。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

福島市市民活動サポートセンター
福島市早稲町4-16 ラヴィバレー番丁3階 <http://www.f-ssc.jp>
Tel: 024-526-4533 FAX: 024-526-4560

